

令和2年度の献血の推進に関する計画（案）に対する意見募集結果について

令和元年12月  
厚生労働省医薬・生活衛生局  
血液対策課

令和2年度の献血の推進に関する計画（案）について、令和元年11月12日から令和元年11月26日まで電子政府の総合窓口（e-Gov）に掲載することを通じて御意見を募集したところ、32件の御意見（うち今回の意見募集と直接関係しない御意見24件）をいただきました。

今般、お寄せいただいた御意見とそれに対する回答については、別添のとおりです。なお、いただいた御意見については、適宜要約した上で記載しております。

今後とも厚生労働行政の推進に御協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

令和2年度の献血の推進に関する計画(案)に関する意見募集に寄せられた御意見とそれに対する考え方

○ 意見募集期間 令和元年11月12日～令和元年11月26日

番号	御意見	御意見に対する考え方
1	<p>20年ほど前、今は潰されてビルが建ってますが秋葉原の電気街側の広場で人生初めて献血をしました。血小板だけを取り出すタイプで結構時間がかかって、お礼に紙コップのドリンクを頂きました。今はどうか知りませんが、学校や中小企業でお礼に焼きそばパンと紙パックの小さいコーヒー(ジュース)でも出せば、結構喜んで献血に来てくれるんじゃないでしょうか？一食浮くならやる人います。献血者のメリットがあれば受ける人は確実に増えると思います。</p>	<p>日本赤十字社では、主に脱水症状の防止や栄養補給を目的として、献血者に飲食物の提供を行っています。頂いた御意見は、今後の施策の検討を行うに当たっての参考とさせていただきます。</p> <p>なお、血液法では有料採血を禁止しており、献血者に対して金銭又は金銭の代替とみなされる物を提供することはできません。</p>
2	<p>献血基準の見直しについて、提案があります。血小板成分献血(PC+PPP)は年間12回までとなっていますが、これを前回から2週間の間隔さえ空ければ可能とし、12回の制限を外すのです。リピートドナーに対して、試行的に12回の制限を外し、現在までの血小板数の推移を見たと上で本基準を見直すのです。本採血の可否判定は事前検査でのPLT値で見極められていますから、問題にはならないはず。血小板成分献血は、クエン酸反応が起こりやすく、応じられる層に限られるので、12回よりも多く可能なドナーについては制限を外すほうが、より安全な血液製剤の供給に資することになります。</p>	<p>採血基準の見直しについては、本計画案において「国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しを検討する。」こととしています。頂いた御意見は、今後の施策の検討を行うに当たっての参考とさせていただきます。</p>
3	<p>第二 第一の目標量を確保するために必要な措置に関する事項 一 献血推進の実施体制と役割 採血した血液を元に血漿分画製剤などの医薬品が製造されている。その医薬品製造販売業者には献血推進に関わる役割が与えられていないため、献血の普及・啓発に資する活動をするよう求めてはどうか。</p>	<p>「献血推進の実施体制と役割」では、血液法において献血推進に関する責務が規定されている国、地方公共団体及び採血事業者について記載しています。</p> <p>ご指摘のとおり、献血の推進に当たっては、血液製剤の製造販売業者など関係者の協力が不可欠であると考えています。本計画案においては、血漿分画製剤の原料となる血液の確保にあたり、国及び採血事業者の協力者として製造販売業者を明記しています。</p>
4	<p>第三 その他献血の推進に関する重要事項 二 輸血用血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応 「国、都道府県及び採血事業者は、製造販売業者等の保有する輸血用血液製剤(特に有効期間の短い血小板製剤と赤血球製剤)の在庫水準を常時把握し」の部分について変更を要望する。 有効期限の長いFFPIには6ヶ月の貯留期間が設定されており、採血してすぐに出荷可能となる製剤ではない。そのため血液型別比率の低いAB型において、原料血液の採取に苦勞するFFP-LR480はしばしば欠品状態となっている。FFP-LR480の代わりにFFP-LR240を2本使用することも可能であるが、副作用・感染症のリスクは2倍、薬価差も大きく診療側への負担は大きいものがあります。 このことから、在庫水準を常時把握することは輸血用血液全てに対して必要な措置であると考えますので、「(特に有効期間の短い血小板製剤と赤血球製剤)」の部分は削除するよう要望します。</p>	<p>御意見いただいた括弧書きの部分については、輸血用血液製剤のうち、特に有効期間が短く、不足が生じた際に早急に対策を講ずる必要がある製剤を記載したものであり、在庫水準を把握する対象の製剤を限定しているものではありません。そのため、原案どおりとさせていただきます。</p>

番号	御意見	御意見に対する考え方
5	<p>第三-1 血液検査による健康管理サービスの充実 これについて行う事は、非常に有効であると考えてる。 血中の尿酸の検査結果を加えるだけで、随分と献血を行う人も、回数も増えるのではないかと考える。もっともっと早いうちから行っていくべきであったと考えるが、尿酸の検査結果などが追加されるのであれば、それは非常に望ましい事であると考えてる。 (もちろんなのではあるが、尿酸などが加わる事には、国民の日頃の体調の健全化努力を促進する効果や、重大な問題事態が発生する事を未然に防ぐ効果などが期待され、とても望ましいと考える。そして献血の高頻度化も期待されると考える。)</p>	<p>頂いた御意見は、今後の施策の検討を行うに当たっての参考とさせていただきます。</p>
6	<p>献血のポスターのキャラクターで一部から苦情があったとニュースサイトで見ました。文句を言っているのは、おそらく対象の若年層ではなかったのでは？と思います。一部の苦情に屈して必要な活動が萎縮してしまわないかと心配しましたが、献血に協力してくれた方々は増えましたでしょうか。 ぜひまた、たくさんの方が献血に意識を向けてもらえるキャンペーンを行って頂きたいと思います。批判されても屈しないで、頑張ってください。</p>	
7	<p>献血推進広告に対して批判が殺到したと伺いましたが、個人的には批判する合理的根拠は皆無であるばかりか、その批判こそが社会に有害だと思えます。今後の社会のためにも、批判に盲目に従うのではなく、その合理性と社会的貢献度を逐次検討いただき、理を欠いた批判には毅然とした態度を望みます。批判の鵜呑みは一番の怠惰です。</p>	<p>日本赤十字社が実施した献血推進キャンペーンに関する様々な御意見については、日本赤十字社に提供するとともに、今後の普及啓発資材を作成するに当たっての参考とさせていただきます。</p>
8	<p>献血推進にはアニメキャラクターによる「献血推進キャンペーン」が一番！ヲタクの方たちが献血をするとアニメキャラクターの限定グッズ(クリアファイルなど)がもらえるとかわかれればリミットギリギリまで献血に参加してくれます。 本来の献血は善意で成り立っているが、少子高齢化の問題で献血参加者が少ない。アニメキャラグッズの為の献血参加に異を唱える方もいるでしょう。だが「やらぬ善よりやる偽善」とえ偽善(グッズ欲しさ)であっても輸血を待っている人はいます。献血の推進に積極的にアニメとコラボすべきです。</p>	